



写真:豊中市史 引用

日本の自然
100選

千里丘陵の竹林

8 km四方の広大な千里丘陵。標高133.8 mの烏熊山が最高地点で、なだらかな丘陵です。また深く谷に筋が切り込まれています。この広々とした丘陵は、大部分が50 mから70 mの標高で構成されており、松、竹、果樹などの林に覆われています。有名なものであれば「千里のタケノコ」。稲作に向かない酸性土壌のため、農家が副業としてモウソウチクを植えたことが始まりと

言われていますが、今では極上品として知られるようになりました。

科学の世界で、竹はとても不思議な生き物。そもそも草なのか木なのか学者の中でも説が異なるとのこと。1日で1 mも伸びるといふ信じられない成長をすることもあるようです。竹林で小さなタケノコ探しはいかがでしょうか。翌日には、「え、昨日のあの子？」なんて驚かされてしまうかも。

日本の里
100選

長谷の棚田



能勢町の最西部・長谷地区に位置する長谷の棚田。

400年以上かけて少しずつ山を切りくずし、ひとつひとつ田んぼを増やし、今の美しい風景がつくられてきました。

今では約550枚の田で構成されています。夏場でも市内とは5〜6度の温度差がある別天地。田植えや稲刈りのシーズンになると、たくさんのカメラマンや画家が、この独特の構図を成した田風景に興味を持ち、駆けつけます。

日が差し込み、田の二面が美しく色づき、稲が気持ち良さそうに揺れる姿。能勢を代表する文化的景観地といえます。





写真・能勢妙見山観光協会 提供

北に能勢町、南に豊能町、その間に位置する標高660mの山。それが妙見山です。正式には「無漏山真如寺境外(けいがい)仏堂能勢妙見山」といいます。昔は、神様と仏様が同じ場所でお祀りされていたようですが、明治になって、神仏分離(1868年)が行われ、能勢妙見山がその沿革から寺院として再認識されることになりました。日蓮宗関西随一の霊場として建立された能勢妙見山本堂は山頂にあり、そこから眺める夕日は、日本の夕日100選に選ばれるに相応しい、荘厳な光です。

心を落ち着かせて夕日の顔をそっと覗いてみてください。寝静まる前の、やわらかな仏様のお顔立ちとよく似ています。

日本の夕日
100選

妙見山



箕面公園

多くの観光客でにぎわう箕面公園。平成24年の利用者数は1701千人。毎年約200万人が訪れます。昭和42年12月11日に963haの面積を持つ国定公園として指定された暖帯性自然林の公園です。その特色は動物・植物・昆虫が息づく自然豊かな構造山地。主にニホンザルが有名で、運の良い人なら滝道など思わぬところ

ろでひょっこり山から降りてきたニホンザルに遭遇することもあります。歴史人物からも愛され、千円札の絵柄でもこの地に足を運んでいます。また、漱石は「彼岸過迄」という小説で箕面の地を訪れたことを書き記し、実際にあったとされる建物の特徴的な描写や、二人のお婆さんの不思議なやりとりなども書いています。小説の中の不思議な世界を肌で感じてみてはいかがでしょうか？

森林浴の森
100選

